



うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第7号

発行日：平成9年9月30日
編集発行：魚津埋没林博物館
印刷：魚津印刷(株)

ふだんは見せない“裏の顔”



この山は魚津市の最高峰、毛勝三山で、左から猫又山(2378m)、釜谷山(2415m)、毛勝山(2414m)です。3つの山頂が仲良く並んでいます。この写真は、富山平野から見上げる角度のほぼ反対側、白馬岳付近から撮影したものです。写真で見えている山肌は宇奈月町側で、ふだん平野から見えるのは魚津市側になります。この毛勝三山の“裏の顔”は、登山をして汗をかかないと見ることはできません。

[1997(平成9)年8月6日撮影]

魚津の“特別”天然記念物

学芸員 石須 秀知

魚津埋没林博物館の正式な名前は、頭に“特別天然記念物”がついている。「魚津埋没林」は、1955（昭和30）年にその埋蔵地が国の特別天然記念物に指定された。

では、国の指定する普通の天然記念物と“特別”がつくものとは何が違うのだろうか。1951（昭和26）年の文化財保護委員会告示から抜粋すると、天然記念物とは「動植物及び地質鉱物のうち学術上貴重で、我が国の自然を記念するもの」であり、そのうち「世界的に又国家的に価値が得に高いもの」が特別天然記念物に指定される。文化財としての価値は、天然記念物は重要文化財に相当し、特別天然記念物は国宝に相当するといわれる。

さて、ここで問題。魚津市には国の特別天然記念物は4つある。1つは「魚津埋没林」であるが、では残りの3つは何か。魚津市民でも3つすべてを即答できる人は多くはないと思う。

1つは、「ホタルイカ群遊海面」である。これは比較的よく知られているので答えられた人も多いと思う。ただし、指定されているのは海面で、ホタルイカそれ自体ではない。富山市水橋から魚津市にかけての波打ち際から約1274m（700間）の沖合までの海面が指定範囲である。正確に言えば海上は魚津市の行政区域には含まれないかもしれないが、埋没林・蟹気楼と並んで魚津の3大奇観の一つに数えられ、地元との結びつきも強い。

残る2つはちょっと難しい。埋没林、ホタルイカと来れば蟹気楼か、というところではない。蟹気楼は市の“名勝”に指定されているだけである。

ここでヒントをひとつ。残り2つはいずれも生き物で、地域を定めずに特別天然記念物に指定されており、魚津市内にも生息しているものである。

答えの1つは「カモシカ」である。カモシカは魚津市の山間部にも多数生息している。「な〜んだ」と思った人もいると思う。カモシカは魚津では珍しくはない。近年カモシカは増加傾向にある

とも言われ、かなり市街地に近いところでも見かけることがある。他の県ではカモシカによる林業の被害が出ているところもあるということだが、富山県内ではあまりそのような話は聞かない。しかし特別天然記念物としてのありがたみは、だんだん薄れてきているようだ。



カモシカ（魚津市島尻）

そして最後の1つは「ライチョウ」である。これはちょっと反則だったかもしれない。近年の確実な記録は見当たらないが、「富山県の鳥類」（1989（平成元）年富山県発行）には、生息地の中に毛勝山が記されている。表紙でも紹介したように、毛勝山は標高2414mで、魚津市の最高峰の山群の1つである。2400mを超える標高は、ライチョウの生息地としては十分である。また、毛勝山には登山道がなく、人間の影響も少ないと思われるので、過去に生息していたのであれば現在も生息している可能性は高い。

最近、高岡市の瑞龍寺が国宝の指定を受け、注目を集めている。しかし、魚津市には国宝に相当するという特別天然記念物が4つもある。これは自慢してもよいことである。ただし、大切なのは

特別天然記念物そのものはもちろんであるが、それを育む魚津の豊かで質の高い自然が背景になけ

れば成り立たないということである。



ライチョウ (大山町薬師岳)

シリーズ

埋没林の仲間たち ⑦

ヒルムシロの仲間(ヒルムシロ科)

ヒルムシロの仲間は、池や小川、水田などの水中に生え、水面に葉を浮かべるグループと、水中で生育するグループとがあります。よく目につくのは、水面に葉を浮かべるヒルムシロ、オヒルムシロ、フトヒルムシロなどです。古い溜め池ではヒシの仲間などに混じってヒルムシロやフトヒルムシロの葉が水面を覆っているのが見られます。この水面に浮かぶ葉をヒルのむしろ（わらなどで編んだ敷物）に見立てて名前がついています。夏に



ヒルムシロ(手前)とヒシ(奥)



フトヒルムシロの花穂

はその葉の間から太いツクシのようなものがよきによきと顔をだします。これは小さな花が集まった穂です。

*

魚津埋没林の調査では、ヒルムシロの仲間の花粉が各地層から見つかっています。当時この付近には小川や池などの水面があったと考えられます。現在の魚津市では、丘陵地帯の溜め池などにヒルムシロ、フトヒルムシロなどが生育しています。

この展示物★ここに注目

水中展示館・水中の大樹根

水中展示館に入ると大きなプールがあります。縦8m、横16m、深さ2.5mのプールの中には3株のスギの樹根が沈んでいます。

このプールは1952（昭和27）年に発掘調査を行った場所の四方をコンクリートで囲い、そのまま水を入れたものです。つまり、中の樹根は出土したそのままの場所に保存されていることとなります。

プールの中の樹根のうち、中央のもののがもっとも大きく、幹の根元の直径が約2m、根の端から端までは約10mあり、樹齢は500年以上と推定されます。スギは大きなものでは高さが30mを超えますが、この樹根の幹は失われてぽっかりと穴があります。地下の窓から見ると、水面に反射した



樹根が逆さに見え、不思議な空間を作っています。

およそ2000年の昔、スギの巨木が生い茂っていた頃の面影も今はなく、埋没林がなければこの一帯が薄暗い原生林だったことをだれも想像しなかったでしょう。水中に眠る樹根はその全盛期を夢見ながら、見る者に時の流れを語っているようです。

お知らせ

●3月までの行事予定

写真展

○魚津の美しい自然と祭り 写真コンテスト
作品展

11月6日(木)～12月28日(日)

○目で見る空気

1月2日(金)～3月31日(火)

博物館教室

○2月28日(土) 蜃気楼の実験と冬の蜃気楼
観察会

●映像ホールの休止について

11月10日(月)から3月31日(火)まで、改装のため休止します。平成10年4月1日(木)から日本海側最大級、300インチの大型ハイビジョンホールとして、番組内容も一新してオープンします。ご期待ください。

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)…510円 ・小中学生…250円
- 交通
 - ・JR北陸本線 魚津駅 } 下車1.5km (タクシー…5分)
 - ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩…25分)
 - ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049

